

中分類	小分類1	小分類2	リスク	機会	重要度	想定時期			※	
						短	中	長		
政策・法規制	GHG削減		政府などによる排出量規制、規制対応コストの増加、炭素税の導入	輸送の効率化	中	●	●		A	
				営業所に太陽光発電を導入	大	●	●			
				クリーンエネルギー自動車(EV車)へ切替。充電施設を設置	大	●	●			
	太陽光		2025年東京都による太陽光パネル設置義務化 2030年政府による新築住宅太陽光パネル設置義務化(検討中) 6割に導入	太陽光発電の需要拡大(約3倍)	大		●	●	B	
	ZEH		2030年新築住宅のZEH標準化(目標) 2050年既築・新築住宅のZEH標準化(目標) 各種助成金の省エネ住宅への条件化	創エネ・省エネ材の需要拡大 ZEH材の需要増(高断熱・省エネ材)	大		●	●		
サプライチェーン	トレーサビリティ		クリーンウッド法の改訂・厳格化の可能性	トレーサビリティ(追跡可能性)が確保された商品の需要拡大→J-GREEN(持続可能性が確保された木質商品)の販売機会増	大	●			C	
市場	太陽光	蓄電池	太陽光発電、蓄電池における廃棄量の増大	廃棄、再生事業を含めたビジネススキームづくり	大	●	●		B	
			太陽光発電、蓄電池における半導体不足による商品供給不安	販売量増大に伴う調達先拡大と関係強化	大	●	●			
			省エネ材需要増加からの調達難、コスト上昇		大	●	●			
	ZEH	工務店	ZEHが、ハウスメーカー様では5割以上だが、弊社主力の工務店様では1割未満 地方販売店様、工務店様の、商品調達、販売方法が確立していない	ZEHパッケージ推進で工務店様をフォローして新ルートを確立。 サポートサービスの需要拡大 ・地方ごとに地元メーカー様や工場などの取り組みを紹介 ・エコポイントを導入	大	●	●			
	サプライチェーン	トレーサビリティ	トレーサビリティが確保されない素材の販売ができなくなる トレーサビリティの確保可能な限られた素材の奪い合い→調達費用が増加	他社ができない国・エリアのトレーサビリティを確保 サプライヤー様との関係性を活かし貴重な素材を確保	大	●				C
	炭素固定	植林	ウッドショック	国内でも植林事業に着手		大		●		●
国内外の山林を取得し森林経営を行い資源を確保する					大		●	●		
評判	サプライチェーン	トレーサビリティ	木材のトレーサビリティ不足による、ステークホルダーなどからの批判	NGOなどステークホルダーの意見も参考にしながら、デューデリジェンス基準を策定	大	●			C	